

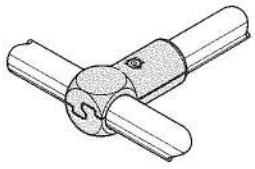
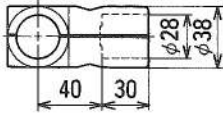
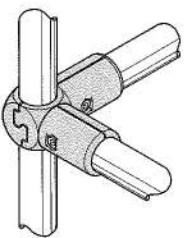
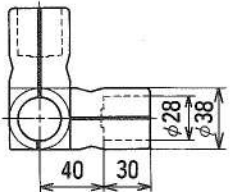
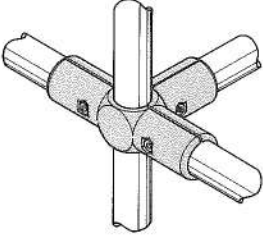
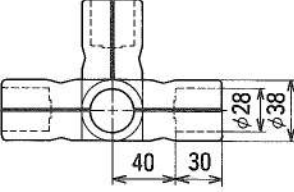
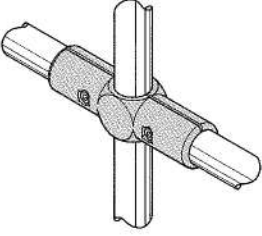
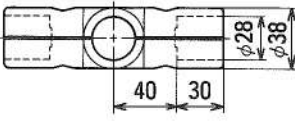
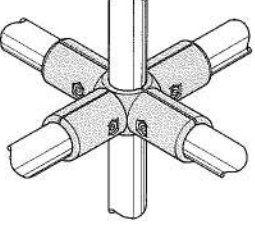
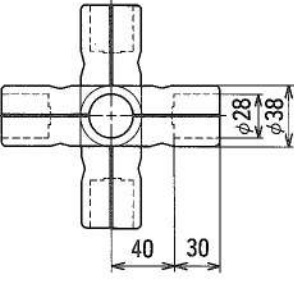
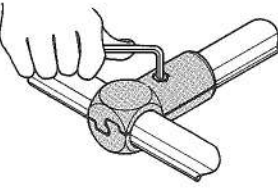
φ28ユニットジョイント

Erector

パイプとジョイントで様々な機能と構造体を生出すイレクターシステムにおけるジョイント(継手)には、プラスチック製(接着固定式)とメタル製(組立分解式)があります。

今回開発したジョイントは、プラスチック製の「錆に強く、軽い」、メタル製の「組立分解が可能」という両方の利点を活かし、さらに、従来の材質とは違うガラス繊維入りの強化プラスチックで、できております。新たな構造体を生出す材料として幅広い分野でご活用いただける製品です。

種類と寸法

JR-1 直角2方向に 		JR-2 直角3方向に 	
JR-3 直角4方向に 		JR-4 直角3方向に 	
JR-5 直角5方向に 		六角棒スパナ5(JIS) ボルトの締付けは、六角棒スパナ5(JIS)を使用。 	 Ⓢ 締付ける際、パイプをユニットジョイントへ完全に差込んでください。

特長

●合理的な活用

本製品は、パイプの固定をボルトとナットで行いますので、ボルトとナットを外すことにより繰返し使用することができます。従って構造や寸法の変更が容易にでき、資源の有効利用にもつながりとても合理的です。

●鉄製より軽量

樹脂製なので、当社メタルジョイント(HJ)の質量より30%軽く、構造物の軽量化がはかれます。

●錆に強い

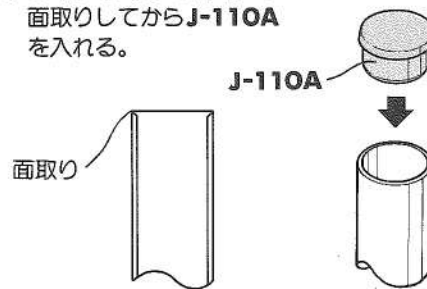
樹脂製であるユニットジョイント本体はもちろんのこと、ボルト・ナットもステンレス製なので、錆に強く衛生的です。

使用上の注意

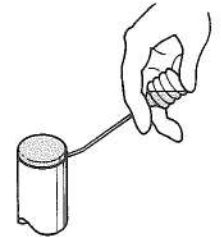
1. 錆止めキャップの取付け

ユニットジョイントは、プラスチックジョイントのようにパイプの切り口を接着で密封することができません。そこで、パイプ内面からの錆止め対策としてパイプの両端にJ-110Aを使用してください。

- ① パイプの内面をヤスリで面取りしてからJ-110Aを入れる。

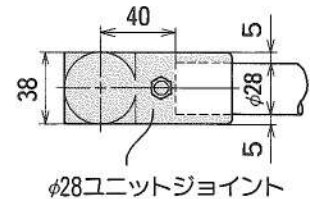
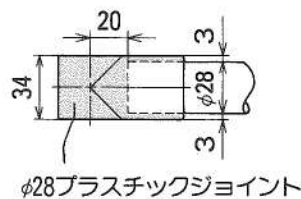


- ② サンアロー接着液で接合部を接着します。



2. 寸法の違い

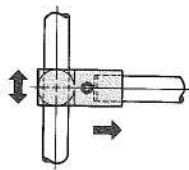
ユニットジョイントは、他のプラスチックジョイント等と寸法の異なる箇所がありますので、他のジョイント等を併用する場合は、寸法違いに注意してください。



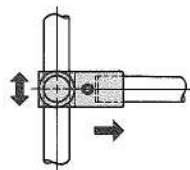
3. 強度について

- ① ユニットジョイントをイレクターパイプに取付け、垂直及び水平に引張り荷重を加えた場合の最大荷重は、1170N {120kgf} (試験条件…試験速度：5mm/min、温度：常温)

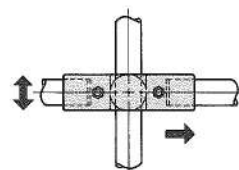
JR-1



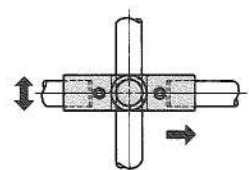
JR-2・3



JR-4

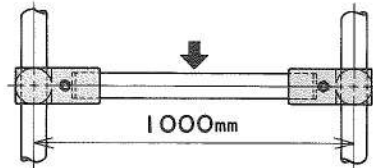


JR-5

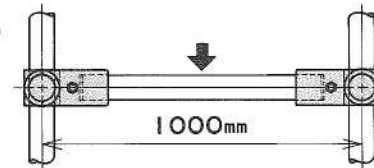


- ② ユニットジョイントにイレクターパイプを組み込み、間隔を1000mmにした場合の比例限界荷重は、680N {70kgf} (試験条件…試験方法：中央集中荷重、試験速度：5mm/min、温度：常温)

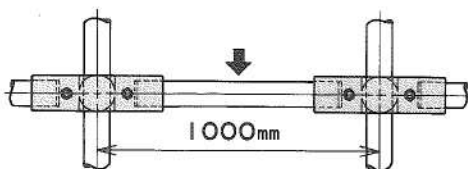
JR-1



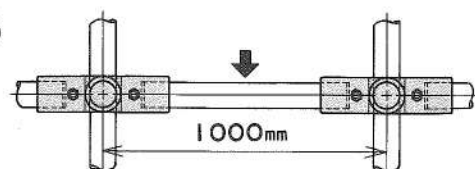
JR-2・3



JR-4



JR-5



強度数値について

上記①、②の強度数値は、締付けトルク9.8N・m {100kgf・cm}で行ったもので、ボルトの締付けが不完全な場合、強度は低下します。

尚、この強度は、イレクターパイプ使用を条件とした数値で、他のパイプを使用しますとこの強度が得られません。又、イレクターパイプの使用温度範囲(−10℃～50℃)を外れる温度条件では、使用しないでください。